



## 取扱説明書

**MT-03**

モーターサイクル

**MT-03**

**⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書を  
よく読んでください。**

安全運転のために

各部の名称

各部の取り扱いと操作

日常点検

運転操作

点検整備

お車の手入れ

製品仕様

ユーザー情報

索引

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

BEV-F8199-J0



## ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明しております。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示しております。
 <b>警告</b>	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示しております。
 <b>注意</b>	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しております。
<b>要点</b>	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しております。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆづるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

# もくじ

<b>安全運転のために</b>	1-1	<b>日常点検</b>	4-1	アンダーブラケットの取り付け状態の点検 (ステアリングシステム) ..... 6-14
あなた自身と同乗者のために	1-1	日常点検の実施 ..... 4-1		
歩行者との車のために	1-5	日常点検箇所／点検内容 ..... 4-1		
環境・住民の方との調和のために	1-6			
<b>各部の名称</b>	2-1			
左側面	2-1			
右側面	2-2			
運転装置と計器類	2-3			
<b>各部の取り扱いと操作</b>	3-1			
キーの取り扱い	3-1			
メインスイッチ	3-1			
警告灯と表示灯	3-2			
マルチファンクションメーター	3-4			
盗難警報器（別売アクセサリー）	3-9			
ハンドルスイッチ	3-9			
ABS	3-11			
フューエルタンクキャップ	3-12			
燃料	3-13			
シート	3-13			
ヘルメットホルダー	3-14			
書類入れ	3-15			
小物入れ	3-15			
リヤクッションの調整	3-16			
荷掛けフック	3-17			
DC コネクター	3-17			
クイックシフターコネクター	3-17			
サイドスタンド	3-18			
イグニッションサーキット				
カットオフシステム	3-18			
<b>運転操作</b>	5-1			
ならし運転	5-1			
エンジン始動	5-1			
ギヤチェンジのしかた	5-2			
ブレーキ	5-3			
駐車	5-3			
<b>点検整備</b>	6-1			
点検整備の実施	6-1			
サービスツール	6-2			
エンジンオイル	6-2			
エンジンのかかり具合、異音の点検	6-3			
低速、加速の状態の点検	6-4			
冷却水	6-4			
エアクリーナーアレメントの交換	6-6			
タイヤ	6-7			
クラッチ	6-9			
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検	6-10			
ブレーキランプスイッチの点検	6-10			
ブレーキパッドの点検	6-10			
ブレーキ液量の点検	6-11			
ドライブチェーン	6-11			
ドライブチェーンの給油	6-13			
バックミラー	6-13			
車体各部の給油脂状態の点検	6-13			
<b>お車の手入れ</b>	7-1			
洗車	7-1			
キャストホイールの取り扱い	7-2			
保管のしかた	7-2			
アフターケア用品について	7-3			
<b>製品仕様</b>	8-1			
<b>ユーザー情報</b>	9-1			
二輪車を廃棄する場合は？	9-1			
サービスマニュアル（別売）の紹介	9-2			
車両情報	9-2			
<b>索引</b>	10-1			

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

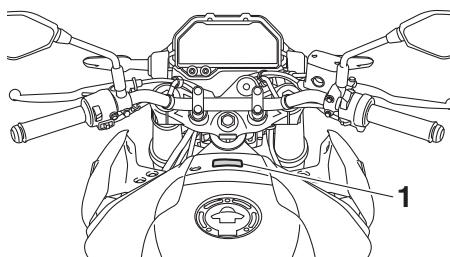
JAU2737A

## あなた自身と同乗者のために

### 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

### 安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをします。頭にしっかりと合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

### ⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドライトを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

# 安全運転のために

1



● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わず事故の原因にもなりますので、着用しないでください。

- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



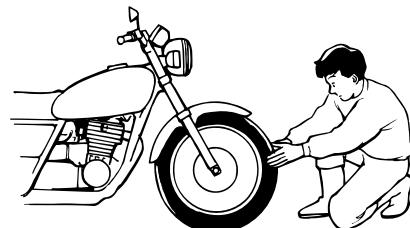
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

## !**警告**

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

## 日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



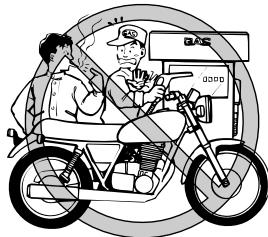
## 車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 异音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

## 給油時は火気厳禁

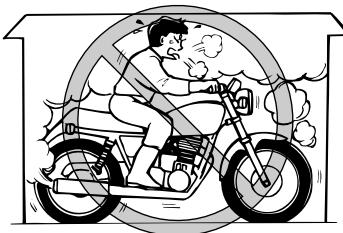
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



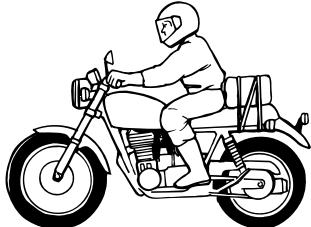
## 風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



## 荷物はしっかり固定する

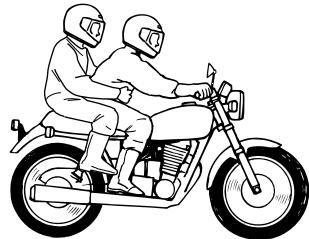


- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

## 両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



## 乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

# 安全運転のために

1

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

## 急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



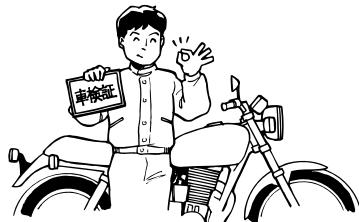
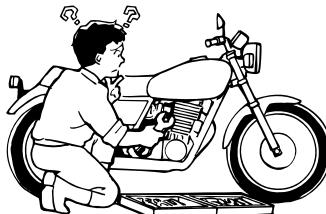
## 誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンス トップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

## 注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

## 継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm<sup>3</sup> 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から3年後に受け、2回目以降の継続検査はその後2年ごとに受けます。

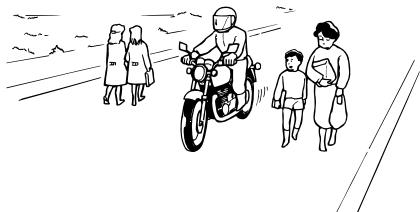
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

## 歩行者と他の車のために

JAU27504

### 他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



### 駐車

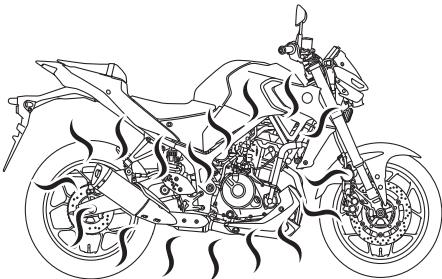
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

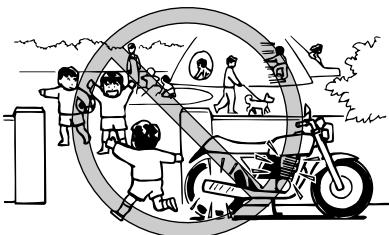
### ！警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーーやエンジンなどが熱くなっています。触るとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



### 昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。



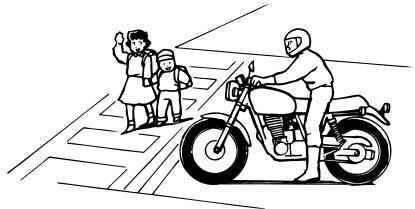
# 安全運転のために

1

## 環境・住民の方との調和のために

### 住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



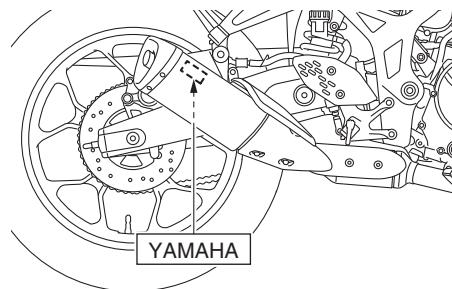
特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



JAU27582

### 違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

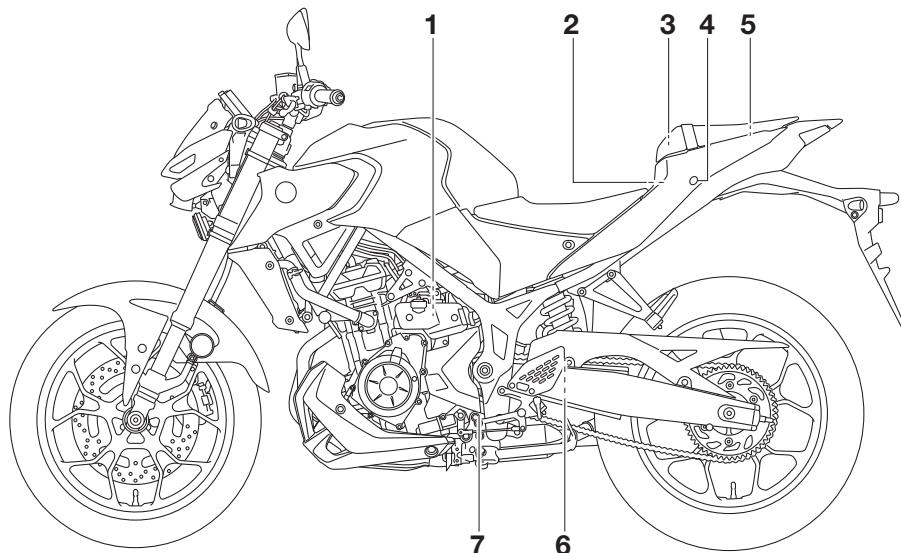


### 環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

## 左側面

2



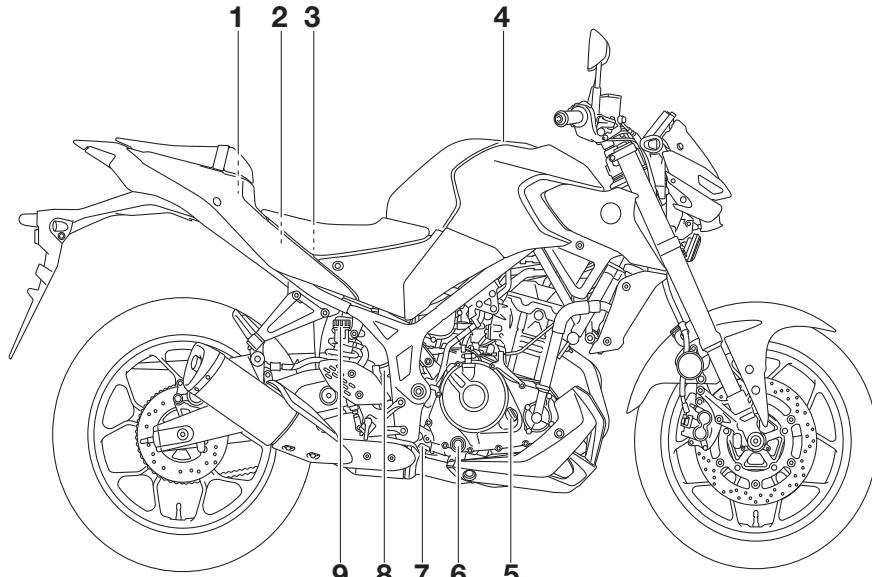
1. リカバリータンク (P6-4)
2. メインヒューズ (P6-15)
3. サービスツール (P6-2)
4. シートロック (P3-13)
5. 小物入れ (P3-15)
6. スプリングプリロードアジャスター (P3-16)
7. シフトペダル

# 各部の名称

## 右側面

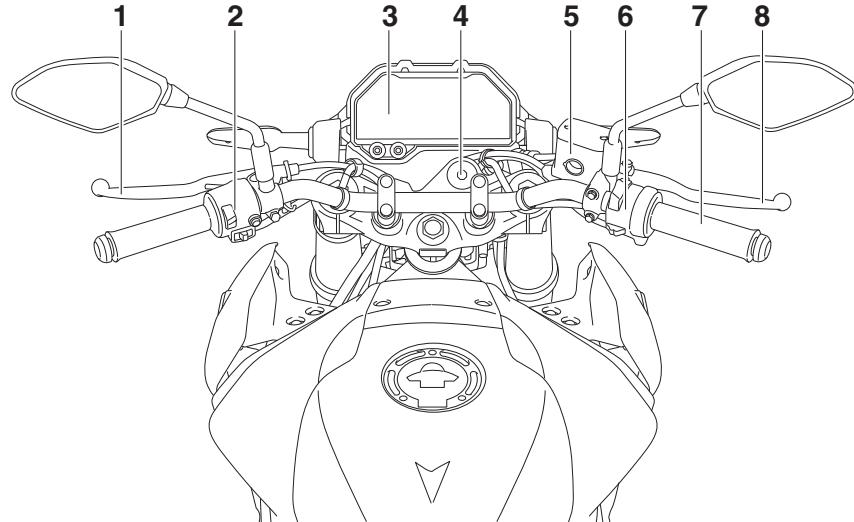
2

JAU10421



1. ヒューズボックス 1 (P 6-15)
2. ヒューズボックス 2 (P 6-15)
3. バッテリー (P6-14)
4. フューエルタンクキャップ (P3-12)
5. オイル注入口 (P6-2)
6. エンジンオイル点検窓 (P6-2)
7. ブレーキペダル (P6-10)
8. リヤブレーキランプスイッチ (P 6-10)
9. リヤブレーキリザーバータンク (P6-11)

## 運転装置と計器類



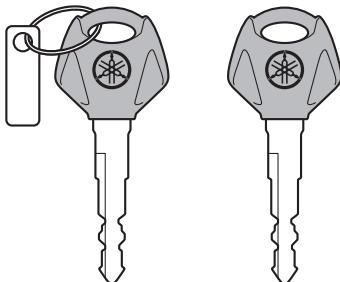
1. クラッチレバー (P6-9)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-9)
3. マルチファンクションメーター (P3-4)
4. メインスイッチ / ハンドルロック (P3-1)
5. フロントブレーキリザーバータンク (P6-11)
6. ハンドルスイッチ (右) (P3-9)
7. スロットルグリップ
8. ブレーキレバー (P6-10)

# 各部の取り扱いと操作

3

## キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1 本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作つておいてください。
- キーを 2 本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



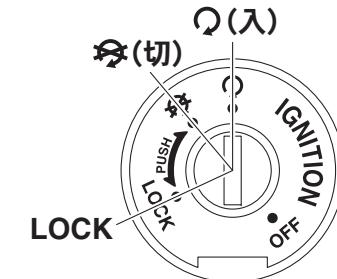
JCA12502

## 注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをおすすめします。

JAU31082

## メインスイッチ



JAU65380

## 要点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU85950

## Q(入)

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

## 要点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まつてもメインスイッチを“☒”にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがあります。異常ではありません。

## 警告

走行中にメインスイッチを“☒”やLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JWA18110

## 注意

エンジンをかけないでメインスイッチを“○”のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリー上がりの原因となります。

JCA22220

## ☒(切)

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

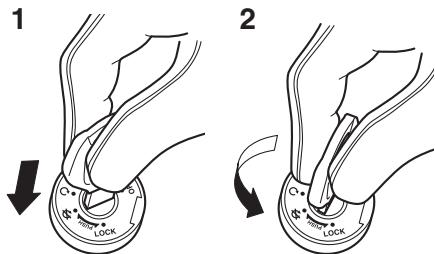
JAU63800

## LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

JAU73830

## ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

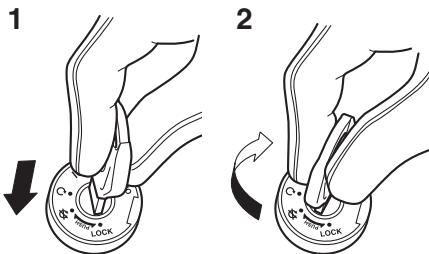
1. ハンドルを左へいっぱいに切れます。
2. “☒”の位置でキーを押し込み、そのまま LOCKまで回します。

## 要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し左右に動かしながらキーを回します。

- 
3. キーを抜きます。

## ハンドルロックの解除のしかた

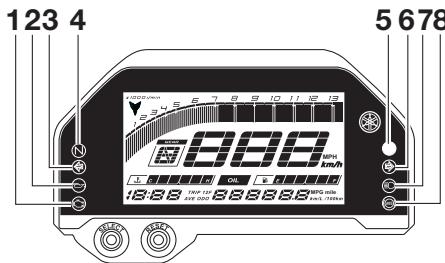


1. 押す
2. 回す

キーを押しこみ、そのまま “☒”まで回します。

JAU4939X

## 警告灯と表示灯



3

1. エンジン警告灯 “”
2. 油圧警告灯 “”
3. 方向指示器表示灯（左） “”
4. ニュートラルランプ “”
5. シフトタイミングインジケーターランプ “”
6. 方向指示器表示灯（右） “”
7. ヘッドライト上向き表示灯 “”
8. ABS 警告灯 “”

JAU11033

## 方向指示器表示灯 “” / “”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11061

## ニュートラルランプ “”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11081

## ヘッドライト上向き表示灯 “”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

# 各部の取り扱いと操作

3

## 油圧警告灯 “”

エンジンの油圧が低くなると点灯します。

### 要 点

車両の電源をオンにすると警告灯が点灯します。警告灯はエンジンを始動するまで点灯しています。車両の電源をオンにしても警告灯が点灯しないときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU85091

### 注意

エンジン運転中に油圧警告灯が点灯した場合は、エンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が不足しているときは、エンジンオイルを補給してください。補給したあとも警告灯が消灯しない場合は、エンジンを停止し、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA21211

## 要 点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

### 注意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

## 要 点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。

## エンジン警告灯 “”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

JAU94030

- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リアブレーキを引きずらないようしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAU80232

## ABS 警告灯 “”

走行中にABS警告灯が点灯または点滅したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。このような場合、直ちにヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。(3-11 ページ参照)

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. エンジンストップスイッチを “○” にセットし、メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が点灯し、10 km/h 以上の速度で走行したあと消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないか、点灯したまま消灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

## ！警告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- 急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。
- 直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

## シフトタイミングインジケーターランプ “○”

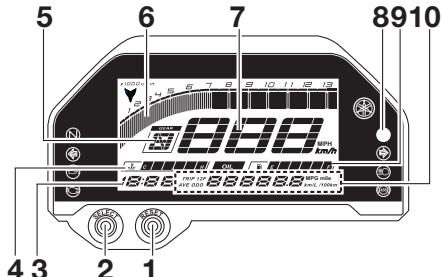
設定されたエンジン回転数になると点灯または消灯し、シフトアップのタイミングをお知らせします。(詳しくは 3-7 ページを参照してください。)

## 要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JWA16043

## マルチファンクションメーター



## ！警告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

JWA12423

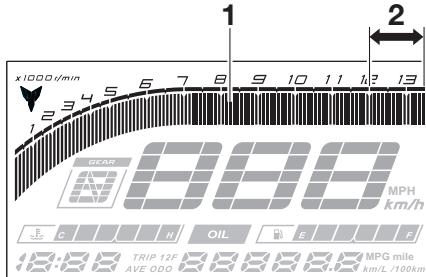
## 要 点

- メーターは、キロメートル単位かマイル単位に設定することができます。マルチファンクションディスプレイにオドメーターを表示させ、“SELECT”ボタンを押すことで、キロメートル単位かマイル単位に切り替えることができます。
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

## スピードメーター

車の速度を示します。

## タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。

# 各部の取り扱いと操作

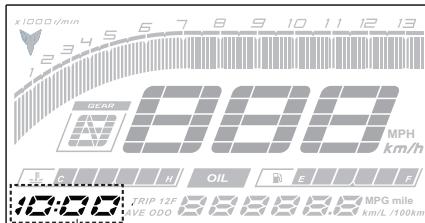
JCA21840

## 注意

エンジン回転数がレッドゾーンに入らない  
ように運転してください。  
レッドゾーン: 12000 r/min 以上

3

## 時計



### 1. 時計

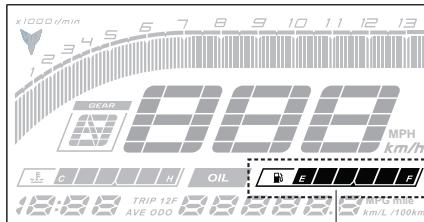
この時計は 12 時間表示です。

### 時刻調整のしかた

- 車両の電源をオンにします。
- “SELECT”ボタンと“RESET”ボタンを同時に切り替わるまで押すと、<時>の表示が点滅します。
- “RESET”ボタンを押して<時>を合わせます。
- “SELECT”ボタンを押すと、<分>の表示が点滅します。

- “RESET”ボタンを押して<分>を合わせます。
- “SELECT”ボタンを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

## 燃料計



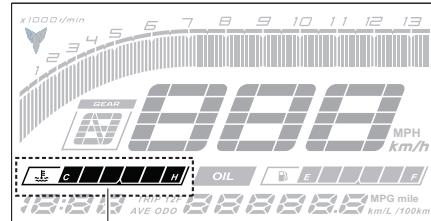
### 1. 燃料計

フューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントが“F”(満)から“E”(空)方向に消えていきます。ガソリンの残量が少なくなると残りの 1 セグメントが点滅して知らせます。ガソリンの残量が少なくなったら、早めに補給してください。

## 要点

燃料計の電気回路に異常が検出された場合、燃料計のすべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に車の点検を依頼してください。

## 水温計



### 1. 水温計

冷却水の温度を表示します。温度が上がるとき水温計のセグメントが“C”(冷)から“H”(熱)方向に増えていきます。一番右側のセグメントが点滅した場合、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA11851

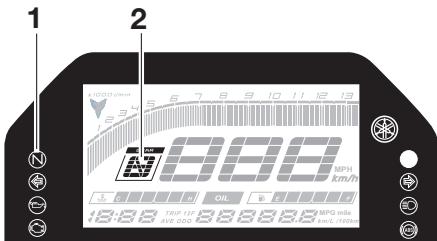
## 注意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

## 要点

水温は、気象条件およびエンジン負荷により変化します。

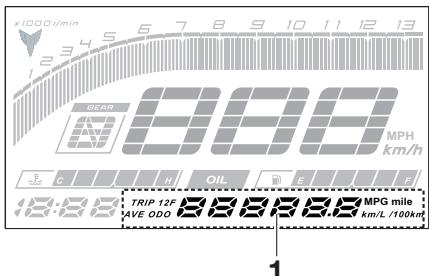
## ギヤポジション表示



1. ニュートラルランプ “N”
2. ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。ギヤがニュートラルのときは、“N”を表示し、ニュートラルランプが点灯します。

## マルチファンクションディスプレイ



1. マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1, TRIP 2)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- 瞬間燃費表示 (km/L, L/100 km)
- 平均燃費表示 (AVE\_.km/L, AVE\_.L/100 km)
- オイル交換トリップメーター (OIL TRIP)

## 表示の切り替えとリセット

マルチファンクションディスプレイの表示を切り替えるには、“SELECT”ボタンを押します。表示は下記の順で切り替わります。

ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP F (燃料残量が少ないとき) → 瞬間燃費表示 → 平均燃費表示 → OIL TRIP → ODO

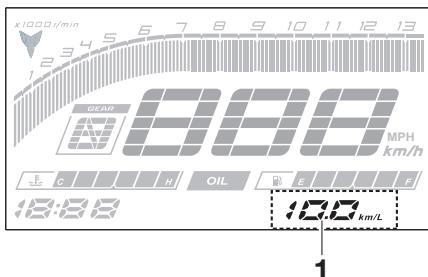
- 瞬間燃費と平均燃費の表示は、“km/L”または“L/100 km”を表示することができます。表示を切り替えるには、燃費表示中に、“SELECT”ボタンを押します。
- 各トリップメーターはリセットすることができます。リセットするには、リセットしたいトリップメーターを表示させてから“RESET”ボタンを切り替わるまで押します。
- 燃料計の残りの1セグメントが点滅を始めると、表示は自動的にフューエルトリップメーター “TRIP F” に切り替わり、その時点からの走行距離を表示します。フューエル

トリップメーターはリセットしなくとも、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にもとの表示に戻ります。

## 要 点

- トリップメーターは、最大値 (9999.9 km) を超えるとリセットされます。
- オドメーターは、最大値 (999999 km) を超えると最大値で固定されます。

## 瞬間燃費表示



1. 瞬間燃費表示

瞬間燃費の表示は、“km/L”または“L/100 km”を表示することができます。

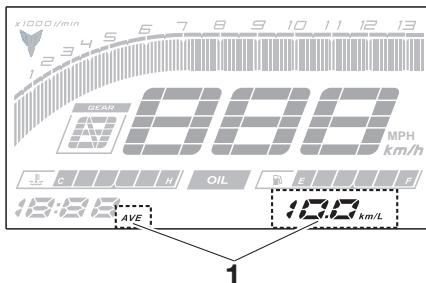
- “km/L”: 現在の走行条件で燃料 1.0 L を使って走行可能な距離を表示します。
- “L/100 km”: 現在の走行条件で 100 km 走行するために必要な燃料の量を表示します。

# 各部の取り扱いと操作

## 要 点

- マイル表示に設定した場合、“MPG”が表示されます。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。
- 10 km/h 未満の速度で走行している場合は、“\_ \_ \_”と表示されます。

## 平均燃費表示



### 1. 平均燃費表示

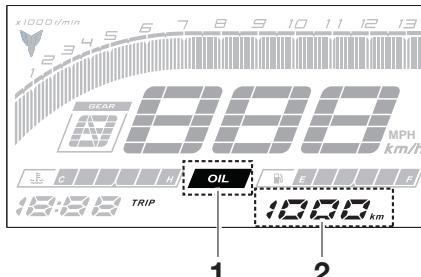
平均燃費の表示は、“AVE\_ \_\_.km/L”または“AVE\_ \_\_.L/100 km”を表示することができます。

- “AVE\_ \_\_.km/L”: 燃料 1.0 L を使って走行した距離の平均を表示します。
- “AVE\_ \_\_.L/100 km”: 100 km 走行するためには使用した燃料の平均量を表示します。

## 要 点

- マイル表示に設定した場合、“AVE\_ \_\_.MPG”が表示されます。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。
- 平均燃費表示をリセットするには、平均燃費を表示させてから“RESET”ボタンを切り替わるまで押します。
- 平均燃費表示のリセット後は、車両が 1 km 走行するまで“\_ \_ \_”と表示されます。

## オイル交換トリップメーター



1. エンジンオイル交換表示 “OIL”
2. オイル交換トリップメーター

オイル交換トリップメーターは、最後にリセットされた時点からの距離（最後にオイル交換をしてからの距離）を表示します。初回は 1000 km 走行時、2 回目はリセット後 4000 km 走行時、以降はリセット後 5000 km 走行するとエンジンオイル交換表示 “OIL” が点滅

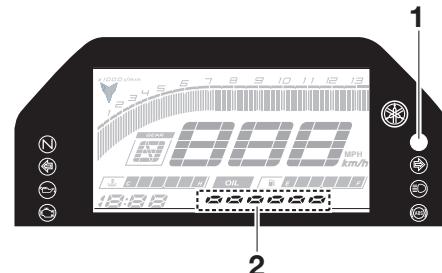
します。エンジンオイル交換表示 “OIL” が点滅したら、早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。

オイル交換後はオイル交換トリップメーターとエンジンオイル交換表示 “OIL” をリセットしてください。リセットはオイル交換トリップメーターを表示させてから“RESET”ボタンを押して “OIL” とオイル交換トリップメーターを点滅させ、さらに“RESET”ボタンを切り替わるまで押します。

## 要 点

エンジンオイル交換表示が点滅する前にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

## シフトタイミングインジケーターランプ “○”



1. シフトタイミングインジケーターランプ “○”
2. 明るさ調節表示

シフトタイミングインジケーターランプは、4つの機能の設定ができます。

- **シフトタイミングインジケーターランプ作動設定：**

シフトタイミングインジケーターランプの作動を有効または無効に設定できます。有効にした場合は、点滅か点灯の選択ができます。

- **シフトタイミングインジケーターランプ点灯設定：**

シフトタイミングインジケーターランプを点灯または点滅させるエンジン回転数を設定できます。

- **シフトタイミングインジケーターランプ消灯設定：**

シフトタイミングインジケーターランプを消灯させるエンジン回転数を設定できます。

- **シフトタイミングインジケーターランプ明るさ設定：**

シフトタイミングインジケーターランプの明るさを設定できます。

## シフトタイミングインジケーターランプの設定

1. 車両の電源をオフにします。

2. “SELECT”ボタンを押しながら、車両の電源をオンにして、約5秒待ちます。シフトタイミングインジケーターランプの作動設定に切り替わります。

## シフトタイミングインジケーターランプ作動設定

1. “RESET”ボタンを押して、次の作動設定の中から1つを選択します。

- シフトタイミングインジケーターランプが作動したときに点灯させる。(この設定を選択するには、シフトタイミングインジケーターランプが点灯している状態にします。)

- シフトタイミングインジケーターランプが作動したときに点滅させる。(この設定を選択するには、シフトタイミングインジケーターランプが1秒間に4回点滅している状態にします。)

- シフトタイミングインジケーターランプを作動させない。(この設定を選択するには、シフトタイミングインジケーターランプが2秒間に1回点滅している状態にします。)

2. “SELECT”ボタンを押すと作動設定が決定され、シフトタイミングインジケーターランプの点灯設定に切り替わります。

タコメーターには現在設定されている点灯、消灯設定のエンジン回転数が表示されます。

## シフトタイミングインジケーターランプ点灯設定

### 要 点

シフトタイミングインジケーターランプの点灯時期はエンジン回転数が7000～13500 r/min の間で設定できます。7000～12000 r/min の間では500 r/min きざみで、12000～13500 r/min の間は200 r/min きざみで設定することができます。

1. “RESET”ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターランプを点灯または点滅させたいエンジン回転数を選択します。

2. “SELECT”ボタンを押して、点灯設定を決定します。同時にシフトタイミングインジケーターランプの消灯設定に切り替わります。

## シフトタイミングインジケーターランプ消灯設定

### 要 点

- シフトタイミングインジケーターランプの消灯時期はエンジン回転数が7000～13500 r/min の間で設定できます。7000～12000 r/min の間では500 r/min きざみで、12000～13500 r/min の間は200 r/min きざみで設定することができます。

# 各部の取り扱いと操作

3

- 消灯設定は点灯設定よりも高いエンジン回転数で設定してください。消灯設定の回転数が点灯設定の回転数より低いとシフトタイミングインジケーターランプは点灯も点滅もしません。

1. “RESET” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターランプを消灯させたいエンジン回転数を選択します。
2. “SELECT” ボタンを押して、消灯設定を決定します。同時にシフトタイミングインジケーターランプの明るさ設定に切り替わります。

## シフトタイミングインジケーターランプ明るさ設定

1. “RESET” ボタンを押して、明るさを設定します。
2. 好みの明るさになったら“SELECT”ボタンを押して、明るさを決定します。各種の設定が保存され、マルチファンクションディスプレイの表示に戻ります。

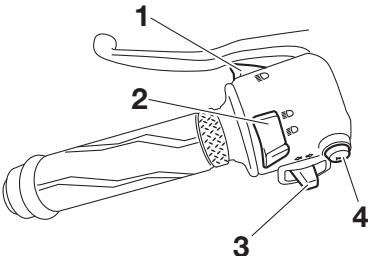
## JAU12333 盗難警報器（別売アクセサリー）

この車には、別売アクセサリーの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU1234S

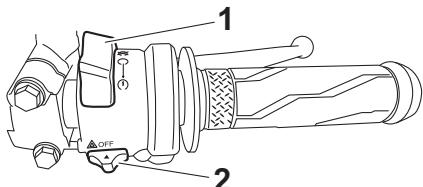
## ハンドルスイッチ

<左>



1. パッシングライトスイッチ “”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “/”
3. 方向指示器スイッチ “/”
4. ホーンスイッチ “”

<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “//”
2. ハザードスイッチ “OFF/”

## パッシングライトスイッチ “”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

### 要 点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが “” のときは、使用できません。

## ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ / ”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

 (上向き)：遠くを照らします。

 (下向き)：近くを照らします。

### 要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

## 方向指示器スイッチ “ < >”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇒：右側の方向指示灯が点滅します。

↔：左側の方向指示灯が点滅します。

JAU12352

## !**警 告**

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JWA11641

## !**警 告**

非常に時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JWA17700

## ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

### 要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU12501

## スターター／エンジンストップスイッチ “ / ”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “” に合わせてから、スイッチを “” まで押してください。

JCA11882

## !**注 意**

- スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーがあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

非常に時に、エンジンをすぐに停止させるには “” にします。通常は “” にしておきます。

JCA20772

### 注 意

- 非常に時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オンのままですると、バッテリーあがりの原因となります。

- 走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “” → “” → “” にしないでください。エンジン不調の原因となります。

### 要 点

“” にすると、エンジンは始動できません。

JAU88273

## ハザードスイッチ “OFF/”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常に時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK

# 各部の取り扱いと操作

にしてもハザードランプは点滅し続けます。ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

3

## 注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

## ABS

この車のABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABSはECU（エレクトロニックコントローラユニット）によってモニターされており、ECUが故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JAU63041

## ！警告

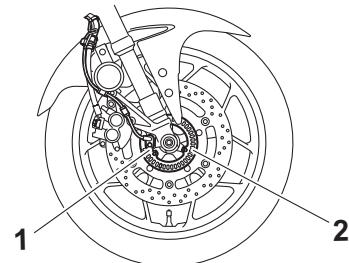
- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABSのない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。

## 要点

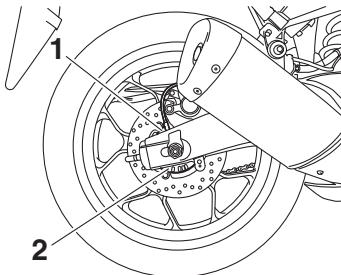
- ABSが作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれません、が、故障ではありません。
- このABSには、ABSが作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

## 注意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABSの性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

JCA20100

## フューエルタンクキャップ

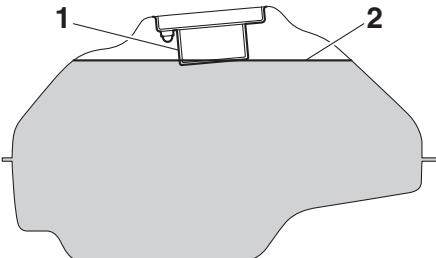
### ！警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあります。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。

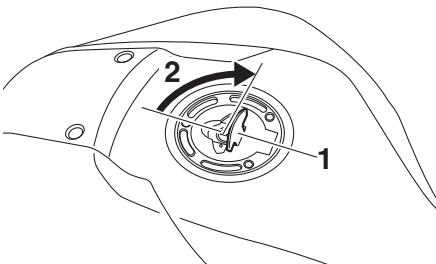
JAU13077

JWA12172



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

## フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

## フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

## 要点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

# 各部の取り扱いと操作

## 燃料

JAU31461

### 指定燃料

JAU28313

指定燃料：  
無鉛レギュラーガソリン  
タンク容量：  
約 14 L

3

## 注意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

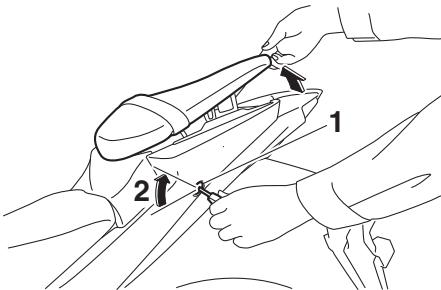
JCA12512

## シート

### タンデムシート

#### タンデムシートの取り外しかた

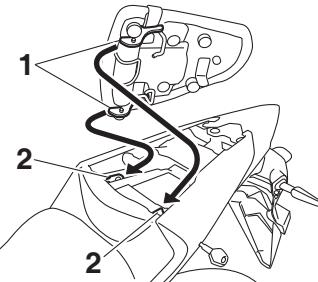
- キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。



- シートロック
- 解除

- キーを回した状態でタンデムシートの後部を持ち上げ、タンデムシートを取り外します。

JAU62622



- 突起
- シートホルダー

- タンデムシートの後部を押し、タンデムシートをロックします。
- キーを抜き取ります。

## ライダーシート

#### ライダーシートの取り外しかた

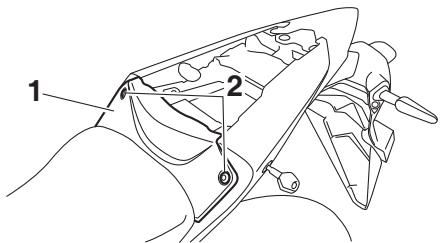
- タンデムシートを取り外します。
- スクリューを外し、タンデムシート前側のカバーを取り外します。

#### タンデムシートの取り付けかた

- タンデムシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。

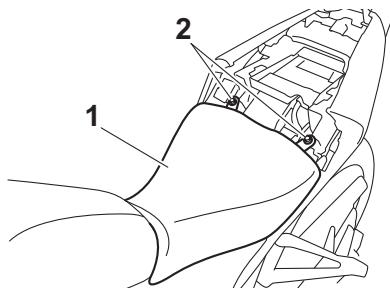
## ヘルメットホルダー

3



1. カバー
2. スクリュー

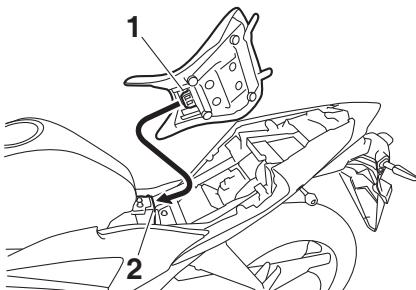
3. ボルトを外し、ライダーシートを取り外します。



1. ライダーシート
2. ボルト

### ライダーシートの取り付けかた

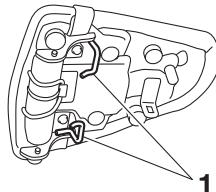
1. ライダーシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー
2. ボルトを締め付けます。
3. カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
4. タンデムシートを取り付けます。

### 要点

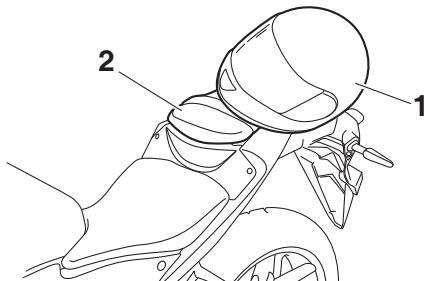
走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。



1. ヘルメットホルダー

キーでシートロックを解除し、タンデムシートを取り外します。(3-13 ページ参照)

ヘルメットのあごひもの金具部分をヘルメットホルダーに掛け、シートを取り付けます。



1. ヘルメット
2. タンデムシート

# 各部の取り扱いと操作

3

## ⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えること、またヘルメットにも損傷を与える保護機能を低下させます。

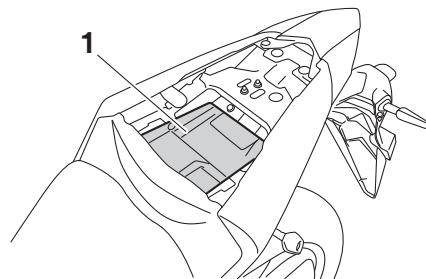
JWA11651

## 書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（3-13 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにして小物入れに保管してください。

JAU62411

## 小物入れ



1. 小物入れ

タンデムシートの下に小物入れがあります。（3-13 ページ参照）

JCA12972

## 注意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- 洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。
- 貴重品やこわれやすい物は入れないでください。
- 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。

## 要 点

- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

## リヤクッシュンの調整

リヤクッシュンには、スプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JAU62563

## ！警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

JWA12441

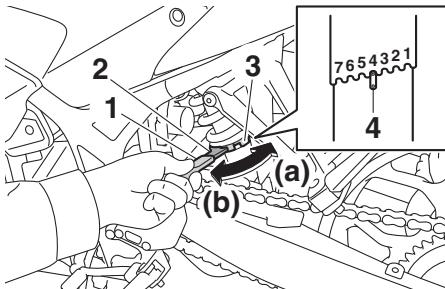
## 注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

JCA10102

## スプリングプリロード

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。



1. エクステンション
2. 調整レンチ
3. スプリングプリロードアジャスター
4. インジケーター

## 要 点

- アジャスターの切り欠きを、リヤクッシュンのインジケーターに合わせます。
- サービスツール内の調整レンチとエクステンションを使って調整を行います。

### スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

1段

標準：

4段

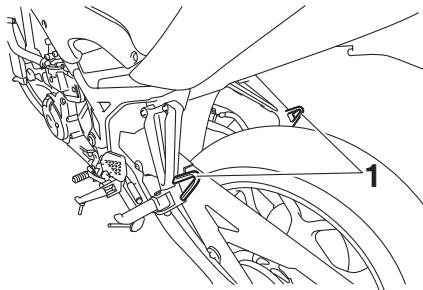
最大（ハード）：

7段

# 各部の取り扱いと操作

3

## 荷掛けフック



1. 荷掛けフック

図に示した荷掛けフックを使用し、荷物を固定します。

JAU84680

JAU70641

JAUN3290

## DC コネクター

この車には DC コネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

## クイックシフターコネクター

この車にはクイックシフターコネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

## サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

### 要点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JAU15306

### 警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JWA10242

## イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

### 要点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、3-1 ページ、3-9 ページを参照してください。

JWA11541

### 警告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

# 各部の取り扱いと操作

3

エンジンが停止した状態で：

1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。

エンジンは始動しましたか？

はい

いいえ

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。  
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：

6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。

エンジンは停止しましたか？

はい

いいえ

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。  
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：

10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。

エンジンは始動しましたか？

はい

いいえ

クラッチスイッチの故障が考えられます。  
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは  
正常です。走行可能です。

## 日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JAU1559B



- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

## 要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

## 日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

JAU30142

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。</li> <li>● ブレーキ液の量が適当であること。</li> </ul>
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タイヤの空気圧が適当であること。</li> <li>● 龟裂、損傷がないこと。</li> <li>● 異常な摩耗がないこと。</li> <li>● 溝の深さが充分であること。 (※)</li> </ul>
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷却水の量が適当であること。 (※)</li> <li>● エンジンオイルの量が適当であること。 (※)</li> <li>● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。 (※)</li> <li>● 低速、加速の状態が適当であること。 (※)</li> </ul>
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。</li> </ul>
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当該箇所に異常がないこと。</li> </ul>

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733



## 警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立て行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

# 運転操作

## ならし運転

JAU31471

### ならし運転のしかた

初回 1か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。  
ならし運転中はエンジン回転数を 7200 r/min 以下で走行してください。  
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。  
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

5

JAU27665

## エンジン始動

JAU63980

JWA11562



### 警 告

- エンジンを始動するときには、3-18 ページに記述された手順で、イグニッションサークットカットオフシステムの機能を点検してください。
  - サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。
1. メインスイッチを“○”にし、エンジンストップスイッチが“○”にセットされていることを確認します。
  2. ギヤをニュートラルにします。

### 要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

### 要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA16661

## 注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

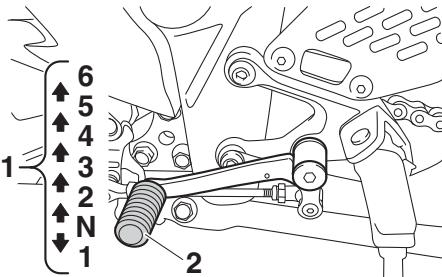
JAU73452

## 要 点

- この車は、以下の機構を装備しています。
- メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。また、この機構が働くと車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転してもエンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けるとバッテリー上がりの原因になりますので、このような状態になった場合は、メインスイッチを一旦オフにして再度オンにするリセット操作をしてください。
  - 車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタートスイッチを押せば再始動が可能です。

## ギヤチェンジのしかた

JAU27517



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の 6 段変速です。  
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

## 要 点

ニュートラル (N) にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10262

## 注 意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。
- ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとト

ランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。

- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JAU64130

## ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

### 走行速度

- 1 速 : 0 km/h-55 km/h
- 2 速 : 15 km/h-75 km/h
- 3 速 : 20 km/h-100 km/h
- 4 速 : 25 km/h-125 km/h
- 5 速 : 30 km/h-145 km/h
- 6 速 : 35 km/h 以上

### シフトダウン速度

- 6 速 → 5 速 : 115 km/h 以下
- 5 速 → 4 速 : 100 km/h 以下
- 4 速 → 3 速 : 80 km/h 以下
- 3 速 → 2 速 : 60 km/h 以下
- 2 速 → 1 速 : 40 km/h 以下

JWA20720

## 警 告

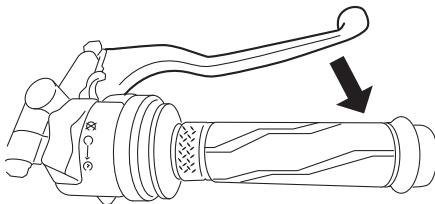
法定速度を守って走行してください。

# 運転操作

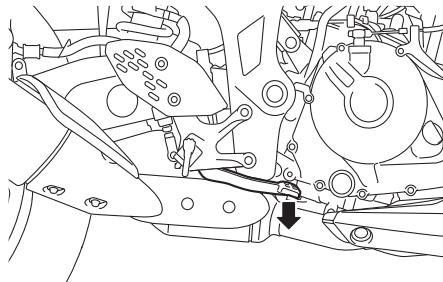
## ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JAU33176

JWA11573

JAU17214

## !**警 告**

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいくことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

## 注 意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

## 駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

## !**警 告**

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

## 点検整備の実施

JAU29839

### 日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

### 定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

### !**警 告**

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
  - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
  - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
  - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でのエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
  - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
  - 异常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

### !**警 告**

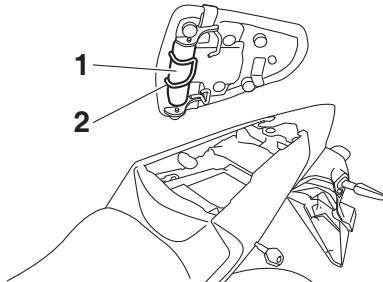
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

### 要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

# 点検整備

## サービスツール



6

1. サービスツール
2. バンド

サービスツールは図で示す場所にあります。

JAU85230

## エンジンオイル

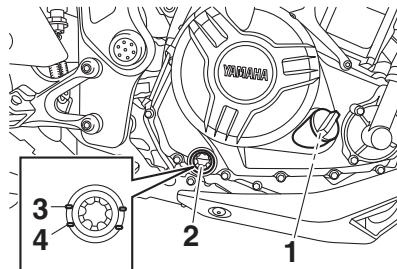
### エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2~3分間アイドリング運転します。

### 要 点 \_\_\_\_\_

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

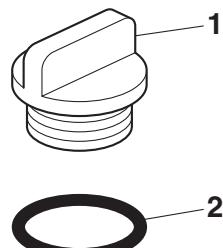


1. オイル注入口
  2. エンジンオイル点検窓
  3. フルレベル
  4. ロアレベル
3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、7-3ページ参照)

JAU30378

### 要 点 \_\_\_\_\_

Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. Oリング

## エンジンオイルの交換時期

JAU65951

- 初回：  
1か月点検時または1000 km 時
- 2回目：  
5000 km 時
- 3回目以降：  
5000 km 走行ごと、または1年ごと
- エンジンオイル量：  
オイル交換時：  
2.00 L  
オイルフィルター取り外し時：  
2.30 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

## オイルフィルターカートリッジの交換時期

- 初回：  
1か月点検時または1000 km 時
- 2回目：  
15000 km 時
- 3回目以降：  
15000 km 走行ごと

## !**警 告**

- 走行後など、しばらくの間はマフラー やエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JWA11861

## 注 意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

JCA12261

## エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

# 点検整備

6

## 低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛けりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぶった布などでふき取ってください。

JAU44194

JWA15531

## 警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして

点検します。このとき、エンジンストール(エンスト)やノックキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

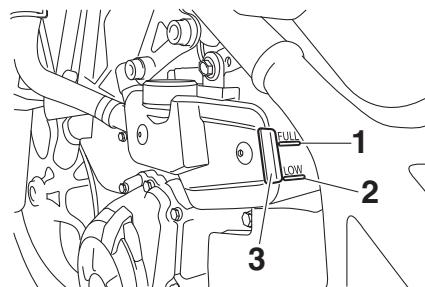
## 冷却水

### 冷却水量の点検

#### 要点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

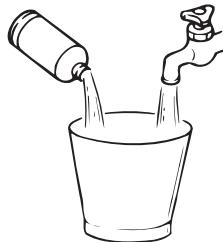


1. フルレベル
2. ロアレベル
3. リカバリータンク

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

## 冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。



JAU30805

## 警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

### ●目にに入ったとき

水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。

### ●皮膚や衣類についたとき

すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。

### ●飲んだとき

すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

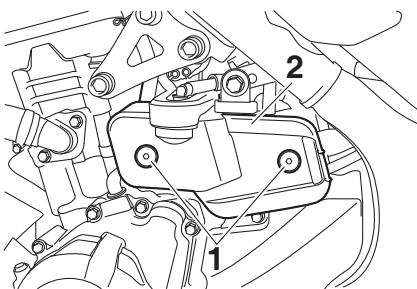
JWA11882

## 注意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

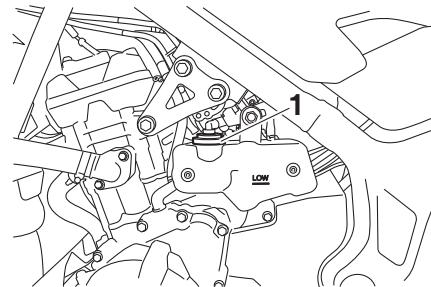
## 冷却水の補充

- ボルトを外し、リカバリータンクカバーを取り外します。



- ボルト
- リカバリータンクカバー
- リカバリータンクキャップを取り外し、冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充してリカバリータンクキャップを取り付けます。

JCA12112



- リカバリータンクキャップ
- リカバリータンクカバーを取り付け、ボルトを締め付けます。

JCA12121

## 注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

# 点検整備

JAUN1172

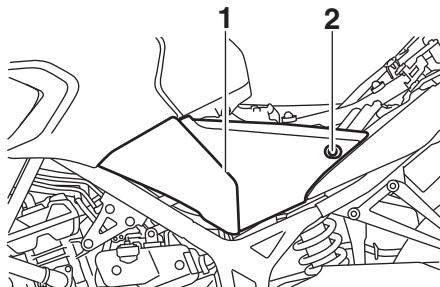
## エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。

## エアクリーナーエレメントの交換

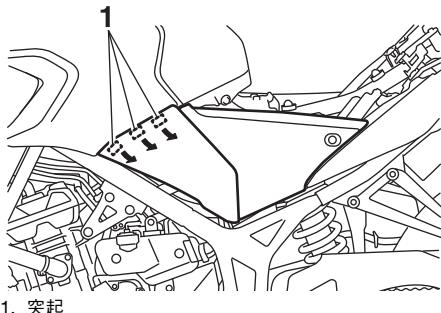
- ライダーシートを取り外します。(3-13  
ページ参照)
- ボルトを外します。

6

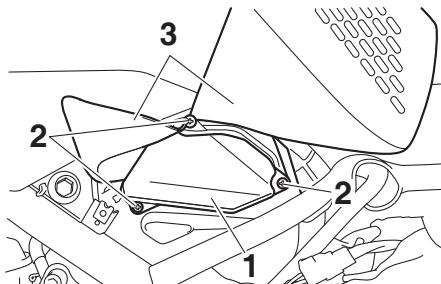


- サイドパネル
- ボルト

- 図の突起のうち、前寄りの突起を先に外してから後ろ寄りの突起を外し、サイドパネルを取り外します。

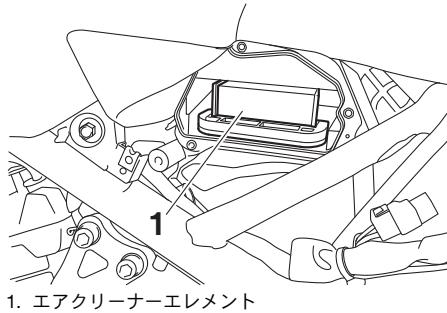


- ゴムカバーをめくってスクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



- エアクリーナーケースカバー
- スクリュー
- ゴムカバー

- エアクリーナーエレメントを取り外します。



- エアクリーナーエレメント

- 新しいエアクリーナーエレメントを取り付けます。
- エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
- ゴムカバーを元の位置に戻します。
- サイドパネルを取り付け、ボルトを締め付けます。
- ライダーシートを取り付けます。

JCA15751

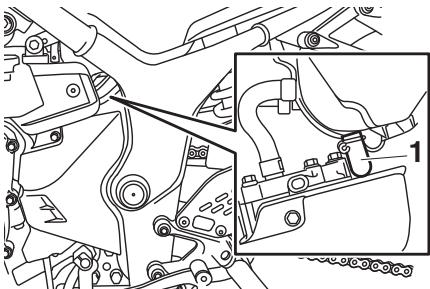
## 注意

- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。

- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、交換を行ってください。

### プローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。

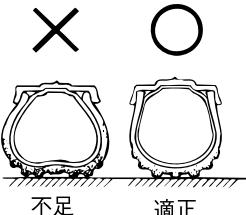


1. プローバイガス還元装置のブリーザードレンホース
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

### タイヤ

JAU65360

### 空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。  
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。  
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

#### タイヤ空気圧（冷間時）：

##### 1名乗車：

前輪： 200 kPa (2.00 kgf/cm<sup>2</sup>)  
後輪： 250 kPa (2.50 kgf/cm<sup>2</sup>)

##### 2名乗車：

前輪： 200 kPa (2.00 kgf/cm<sup>2</sup>)  
後輪： 250 kPa (2.50 kgf/cm<sup>2</sup>)

### 要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

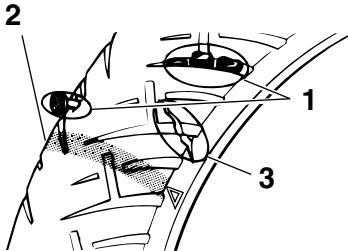
JAU28642

### タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

# 点検整備



6

1. 異物（釘、石など）  
2. ウエインジケーター（摩耗限度表示）  
3. 亀裂、損傷

## 要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

## タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

## タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェインジケーターで点検します。ウェインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

## 要 点

- ウェインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

## ！警 告

- タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なる銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

## タイヤサイズ：

前輪： 110/70R17M/C 54H

後輪： 140/70R17M/C 66H

## 指定タイヤ：

前輪： DUNLOP/GPR-300F

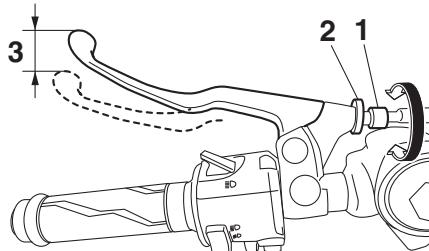
後輪： DUNLOP/GPR-300

## クラッチ

### クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

**クラッチレバーの遊び**  
10.0–15.0 mm

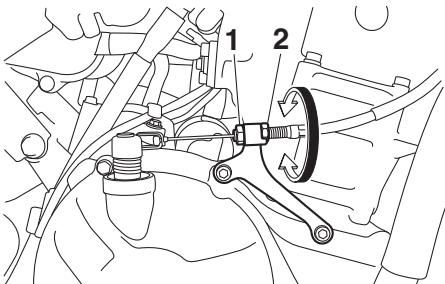


1. アジャスター
2. ロックナット
3. 遊び

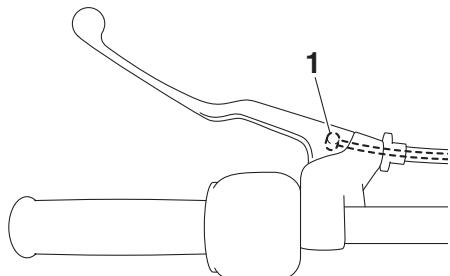
点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。

JAU48222



1. ロックナット
2. アジャスター



1. ケーブル取り付け部

JWA11841



### 警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

### 注 意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。

# 点検整備

## ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

### ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

6

### !**警告**

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

### ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

### !**警告**

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU31122

## ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプはABSの構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

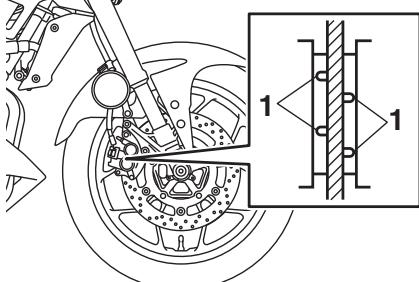
JAU36505

## ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

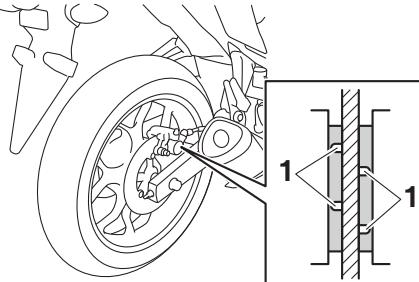
JAU29582

### <フロントブレーキ>



1. インジケーター溝

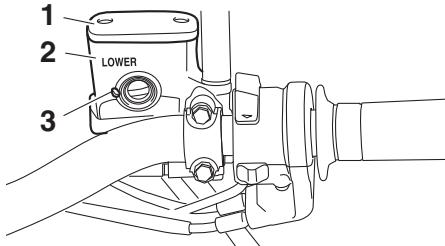
### <リヤブレーキ>



1. インジケーター溝

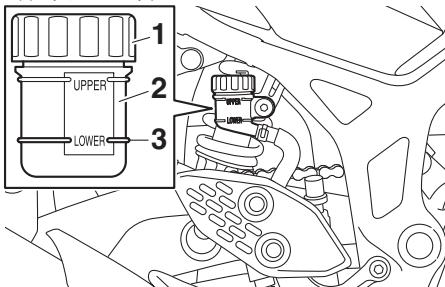
## ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

<リヤブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

JAU44233

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。  
液量がロアレベル以下の中は、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

### !**警告**

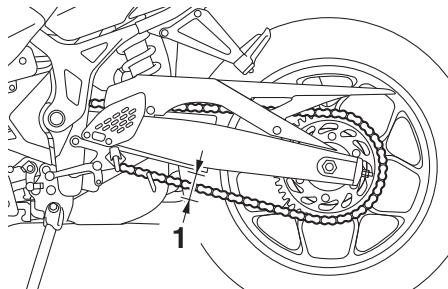
- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店へ点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

JAU22762

## ドライブチェーン

JAU74253

### ドライブチェーンの点検



6

1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

### 要点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

**ドライブチェーンたわみ量：**  
35.0–45.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

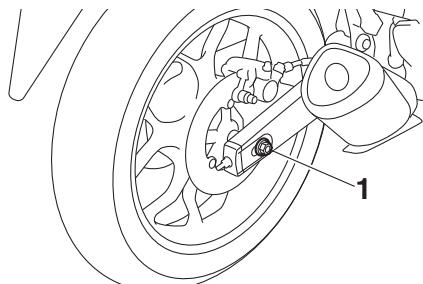
# 点検整備

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

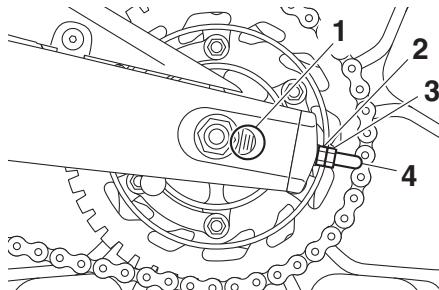
## ドライブチェーンたわみ量の調整

- セルフロッキングナットをゆるめます。



- セルフロッキングナット

- キャップを取り外してロックナットをゆるめ、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。



- 刻み目盛り
- アジャスター
- ロックナット
- キャップ

### 要 点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

- 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

#### 締め付けトルク :

セルフロッキングナット :  
57 N·m (5.7 kgf·m)

- ロックナットを規定のトルクで締め付け、キャップを取り付けます。

#### 締め付けトルク :

ロックナット :  
16 N·m (1.6 kgf·m)

- 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

## ドライブチェーンの給油

JAU23027

- リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマループ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
- チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマループ 180 チェーンオイルを給油します。

## 注意

この車はシールチェーンを採用しています。  
取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

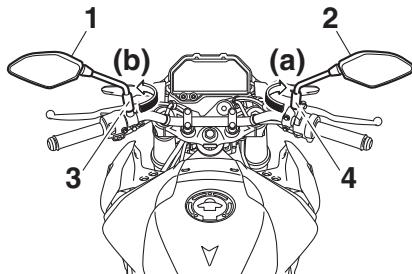
JCA12471

## バックミラー

JAU43562

### バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



- 左バックミラー
- 右バックミラー
- 左バックミラー取り付けナット
- 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

## 車体各部の給油脂状態の点検

JAU28621

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

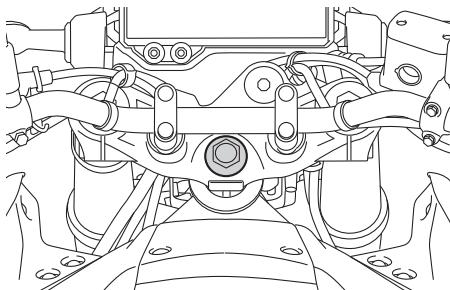
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

# 点検整備

6

## アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28651

## バッテリー

### バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JAU28762

### ！警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

JWA11811

### 応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

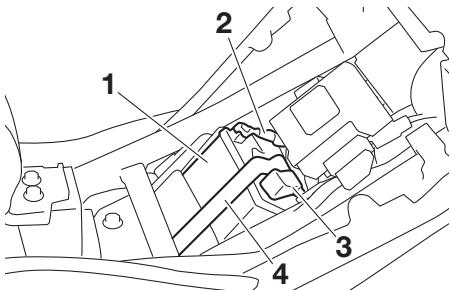
### 注意

- このバッテリーは密閉式の12Vです。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3ヶ月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU63960

### バッテリーの取り外し

1. ライダーシートを取り外します。(3-13ページ参照)
2. バッテリーバンドを外します。



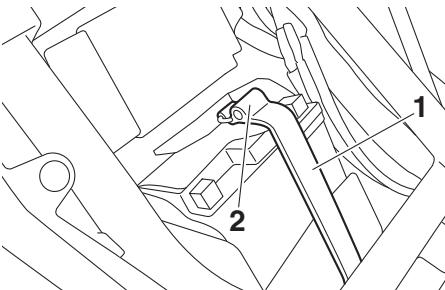
1. バッテリー
2. -リード線
3. +リード線
4. バッテリーバンド
3. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。

### バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

### 要点

バッテリーバンドは図のように突起部が上側になるように取り付けてください。

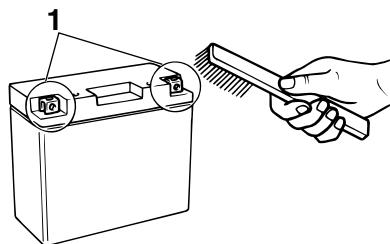


1. バッテリーバンド
2. 突起

JAU29411

### ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



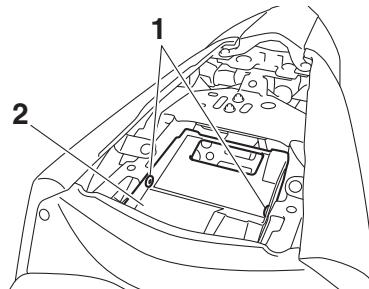
1. ターミナル

### ヒューズ交換

メインヒューズはタンデムシートの下、ヒューズボックス1はタンデムシート前側のカバーを外したところにあります。(3-13ページ参照) また、ヒューズボックス2はライダーシートの下にあります。(3-13ページ参照)

メインヒューズの交換は、以下のように行います。

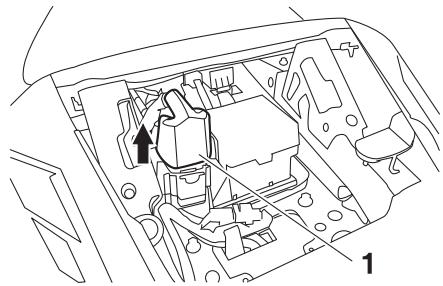
1. メインスイッチをオフにします。
2. タンデムシートを取り外します。(3-13ページ参照)
3. クイックファスナーを取り外し、小物入れを取り外します。



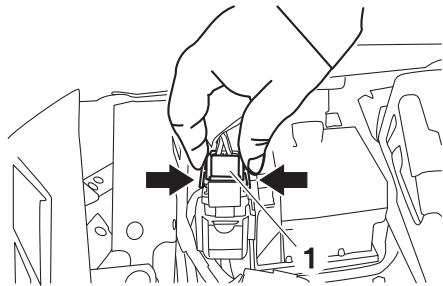
1. クイックファスナー
2. 小物入れ
4. スターターリレーカバーをずらします。

# 点検整備

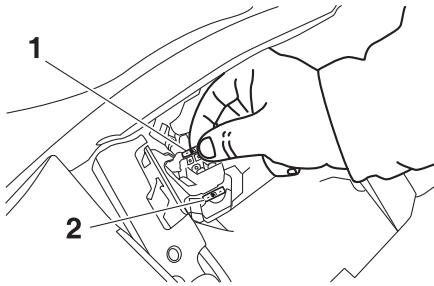
6



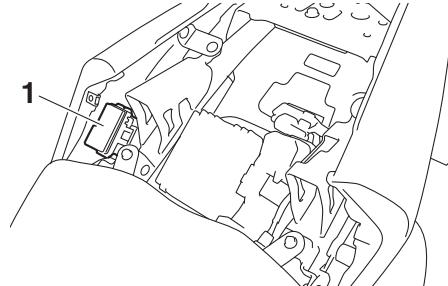
1. スターターリレーカバー
5. 図のようにスターターリレーカプラーケーを切り離します。



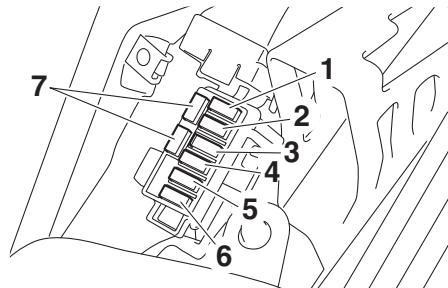
1. スターターリレーカプラーケー



1. メインヒューズ
2. スペアメインヒューズ
6. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。
7. スターターリレーカプラーケーを接続し、スターターリレーカバーを元の位置に戻します。
8. 小物入れを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。
9. タンデムシートを取り付けます。  
ヒューズボックス1のヒューズを交換する場合は、タンデムシート前側のカバーを取り外します。(3-13 ページ参照)

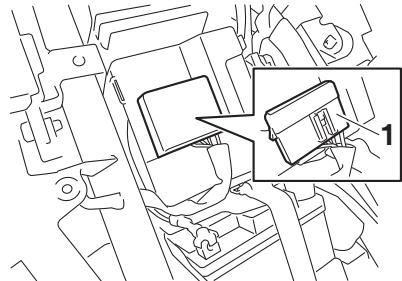


1. ヒューズボックス1

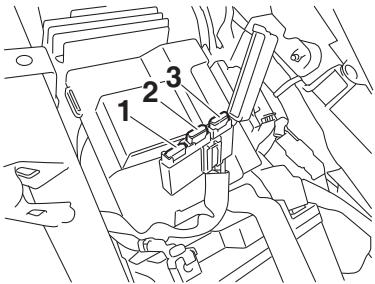


1. イグニッションヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. ABS コントロールユニットヒューズ
4. ヘッドライトヒューズ
5. バックアップヒューズ (時計)
6. ラジエターファンモーターヒューズ
7. スペアヒューズ

ヒューズボックス2のヒューズを交換する場合は、ライダーシートを取り外します。(3-13 ページ参照)



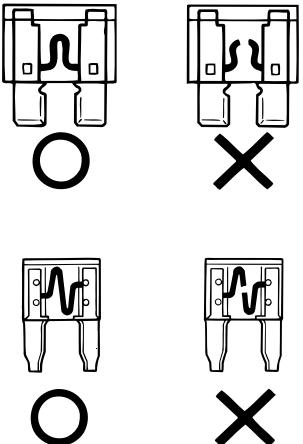
1. ヒューズボックス2



1. スペアヒューズ  
2. ABS ソレノイドヒューズ  
3. ABS モーターヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチをオフにします。
2. 切れたヒューズを取り外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



## 規定ヒューズ：

メイン:

30.0 A

ヘッドライト:

7.5 A

シグナル:

15.0 A

イグニッション:

15.0 A

ラジエターファンモーター:

7.5 A

ABS モーター:

30.0 A

ABS ソレノイド:

15.0 A

ABS コントロールユニット:

7.5 A

バックアップ:

7.5 A

JCA12862

## 注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ

# 点検整備

以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡(ショート)の原因になります。

3. メインスイッチをオンにし、ヒューズ交換した装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

6

## 灯火装置および方向指示灯の点検

- JAU63970
1. メインスイッチを“○”にします。
  2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
  3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
  4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検(6-15ページを参照)し、異常がないときは電球を交換してください。

## 運行において異常が認められた箇所の点検

JAU29571

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

### 注意

JCA12063

電球は、指定されているワット数・規格のもの(8-1ページ「製品仕様」を参照)を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。  
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

## マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

### 注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックス掛けはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

## 洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックス掛けをしてください。（マット塗装部分を除く）

JAU27846



JWA11931

### 警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回

復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

### 注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性

# お車の手入れ

洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

## 要点

- 書類入れ付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることができます。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

7

## キャストホイールの取り扱い

JAU27991

### 日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

### ！警告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

## 注意

JCA12221

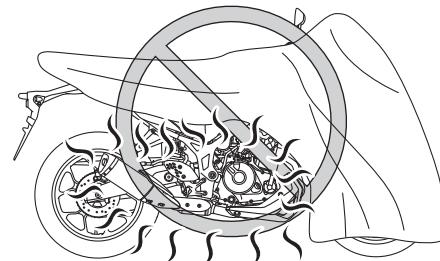
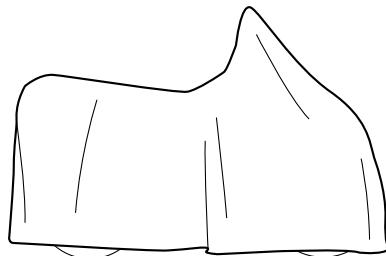
● 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。

● アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

## 保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



JCA13111

## 注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
  - バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。
  - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

## アフターケア用品について

JAU28087  
ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

## ヤマハ純正オイル

JAU28116

### ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。

高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

### ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。

大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。

高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

## ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。

価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

## ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。

コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、

「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索

# 製品仕様

## 寸法 :

全長 :  
2090 mm  
全幅 :  
755 mm  
全高 :  
1070 mm  
シート高 :  
780 mm  
軸間距離 :  
1380 mm  
最低地上高 :  
160 mm

## 重量 :

車両重量 :  
167 kg  
乗車定員 :  
2名

## 性能 :

最小回転半径 :  
2.9 m

## エンジン :

行程 :  
4ストローク  
冷却方式 :  
水冷  
動弁機構 :  
DOHC  
配列 :  
直列  
気筒数 :  
2気筒

## 総排気量 :

320 cm<sup>3</sup>

## フロントブレーキ :

ブレーキ形式 :  
油圧式シングルディスクブレーキ  
指定ブレーキフルード :  
BF-4 (DOT-4)

## リヤブレーキ :

ブレーキ形式 :  
油圧式シングルディスクブレーキ  
指定ブレーキフルード :  
BF-4 (DOT-4)

## フロントタイヤ :

種類 :  
チューブレス  
サイズ :  
110/70R17M/C 54H  
メーカー / 銘柄 :  
DUNLOP/GPR-300F

## リヤタイヤ :

種類 :  
チューブレス  
サイズ :  
140/70R17M/C 66H  
メーカー / 銘柄 :  
DUNLOP/GPR-300

## 動力伝達機構 :

1速 :  
2.500 (35/14)  
2速 :  
1.823 (31/17)

## 3速 :

1.347 (31/23)

## 4速 :

1.086 (25/23)

## 5速 :

0.920 (23/25)

## 6速 :

0.800 (24/30)

## エレクトリカル :

### 電圧 :

12V

## バルブワット数 :

ヘッドライト :  
LED

ブレーキ / テールランプ :  
LED

方向指示灯 (前) :  
LED

方向指示灯 (後) :  
LED

番号灯 :  
5.0 W

マーカーランプ :  
LED

## エンジンオイル :

推奨オイル :  
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

## エンジンオイル量 :

オイル交換時 :  
2.00 L

オイルフィルター取り外し時 :

2.30 L

冷却水容量 :

リザーブタンク (FULL レベルまで) :

0.25 L

ラジエーターと全ての経路 :

0.81 L

バッテリー :

バッテリー型式 :

GTZ8V

バッテリー容量 :

12 V, 7.0 Ah (10 HR)

スパークプラグ :

メーカー / 型式 :

NGK/LMAR8A-9

プラグギャップ :

0.8–0.9 mm

# ユーザー情報

## 二輪車を廃棄する場合は？

### 廃棄を希望する場合は？

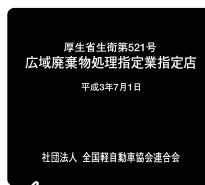
廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

### 廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



Motorcycle Recycling  
廃棄二輪車取扱店



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

JAU36644

### リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

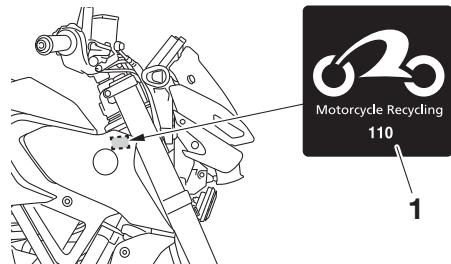
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

### 二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

### 廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>  
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ  
<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

## サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明しております。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

**サービスマニュアル 部品番号：**

QQS-CLT-000-BEV

JAU28393

## 車両情報

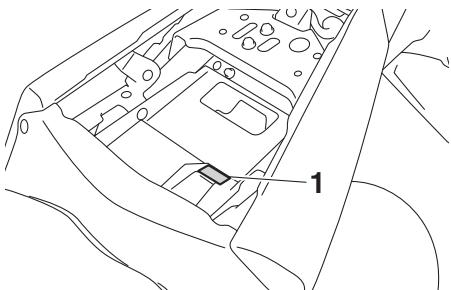
JAU28457

### モデルラベル

パートオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、タンデムシート下の小物入れに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

MT-03

モデルラベル

製品仕様を示しています。

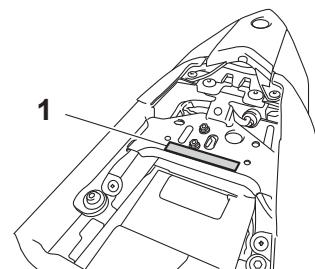


カラーリングを示しています。



JAU50501

### 車台番号



1. 車台番号

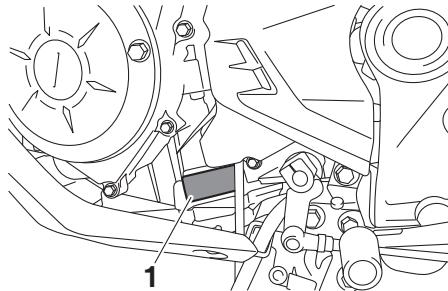
9

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

# ユーザー情報

## 原動機番号



1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAU74841

**車両情報の記録について**  
この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。  
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。

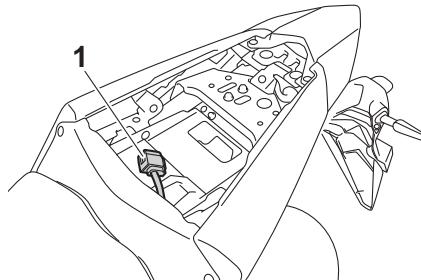
- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

9

## 故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

JAU73861

<b>あ</b>	あなた自身と同乗者のために ..... 1-1
アフターケア用品について ..... 7-3	
アンダーブラケットの取り付け状態の点検 (ステアリングシステム) ..... 6-14	
<b>い</b>	イグニッションサーキット カットオフシステム ..... 3-18
<b>う</b>	運行において異常が認められた箇所の点検 ..... 6-18
<b>え</b>	ABS ..... 3-11
エアクリーナーアレメントの交換 ..... 6-6	
エンジンオイル ..... 6-2	
エンジン警告灯 ..... 3-3	
エンジン始動 ..... 5-1	
エンジンのかかり具合、異音の点検 ..... 6-3	
<b>か</b>	環境・住民の方との調和のために ..... 1-6
<b>き</b>	キーの取り扱い ..... 3-1
キャストホイールの取り扱い ..... 7-2	
ギヤチェンジのしかた ..... 5-2	
<b>く</b>	クイックシフターコネクター ..... 3-17
クラッチ ..... 6-9	
<b>け</b>	警告灯と表示灯 ..... 3-2
原動機番号 ..... 9-3	
<b>こ</b>	故障診断コネクター ..... 9-3
小物入れ ..... 3-15	
<b>さ</b>	サービスツール ..... 6-2
サービススマニュアル(別売) 紹介 ..... 9-2	
サイドスタンド ..... 3-18	
<b>し</b>	シート ..... 3-13
シフトタイミング インジケーターランプ ..... 3-4	
車体各部の給油脂状態の点検 ..... 6-13	
車台番号 ..... 9-2	
車両情報 ..... 9-2	
車両情報の記録に関して ..... 9-3	
書類入れ ..... 3-15	
<b>す</b>	スター／ エンジンストップスイッチ ..... 3-10
<b>せ</b>	洗車 ..... 7-1
<b>た</b>	タイヤ ..... 6-7
<b>ち</b>	駐車 ..... 5-3
<b>て</b>	DC コネクター ..... 3-17
低速、加速の状態の点検 ..... 6-4	
点検整備の実施 ..... 6-1	
<b>と</b>	灯火装置および方向指示灯の点検 ..... 6-18
<b>盗難警報器(別売アクセサリー)</b> ..... 3-9	
ドライブチェーン ..... 6-11	
ドライブチェーンの給油 ..... 6-13	
<b>な</b>	ならし運転 ..... 5-1
<b>に</b>	荷掛けフック ..... 3-17
日常点検箇所／点検内容 ..... 4-1	
日常点検の実施 ..... 4-1	
二輪車を廃棄する場合は? ..... 9-1	
<b>ね</b>	燃料 ..... 3-13
<b>は</b>	ハザードスイッチ ..... 3-10
バックミラー ..... 6-13	
パッシングライトスイッチ ..... 3-10	
バッテリー ..... 6-14	
ハンドルスイッチ ..... 3-9	
<b>ひ</b>	ヒューズ交換 ..... 6-15
<b>ふ</b>	フューエルタンクキャップ ..... 3-12
ブレーキ ..... 5-3	
ブレーキ液量の点検 ..... 6-11	
ブレーキパッドの点検 ..... 6-10	
ブレーキランプスイッチの点検 ..... 6-10	
ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検 ..... 6-10	
<b>へ</b>	ヘッドライト上下切り替え スイッチ ..... 3-10

# 索引

---

---

ヘルメットホルダー ..... 3-14

## ほ

ホーンスイッチ ..... 3-10

方向指示器スイッチ ..... 3-10

保管のしかた ..... 7-2

歩行者と他の車のために ..... 1-5

## ま

マルチファンクションメーター ..... 3-4

## め

メインスイッチ ..... 3-1

## も

モデルラベル ..... 9-2

## り

リヤクッションの調整 ..... 3-16

## れ

冷却水 ..... 6-4



あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの  
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-100-BEV

PRINTED IN INDONESIA  
2022.01